

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー/スポーツ健康 学科  
AT・MT・PHⅢ/TR・IN・CO・SBⅡ コース

授業科目 (科目ID)	エアロビック指導員対策実技 20t327/20s229		担当教員 (実務経験)	大嶋 春香 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> スタジオインストラクター		
対象年次・学期	3年/2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	エアロビック指導員取得に向け、実技試験と指導実習試験を合格できるレベルになる。					
到達目標	実技試験と指導実習試験を合格できるレベルになる。					
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料等配布する。					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	小テストは実技試験、指導実習試験を実際に行い、 その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	80%				
	提出物	%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項	基礎をしっかり覚え、身に付け指導できるようにする。まずは自身が楽しんで学ぶこと					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	実技試験対策①	エアロビック技能検定4級ベーシックルーティンA～Dパート			
	2	実技試験対策②	エアロビック技能検定4級ベーシックルーティンA～Dパート			
	3	実技試験対策③	エアロビック技能検定4級ベーシックルーティンA～Dパート			
	4	実技試験対策④	エアロビック技能検定4級ベーシックルーティンA～Dパート			
	5	実技試験対策⑤	エアロビック技能検定4級ベーシックルーティンA～Dパート			
	6	実技模擬試験①	実技試験			
	7	実技模擬試験②	実技試験			
	8	指導実習試験対策①	エアロビック技能検定5級Dパート			
	9	指導実習試験対策②	エアロビック技能検定5級Dパート			
	10	指導実習試験対策③	指導実習			
	11	指導実習試験対策④	指導実習			
	12	指導実習試験対策⑤	指導実習			
	13	指導実習模擬試験①	指導実習試験			
	14	指導実習模擬試験②	指導実習試験			
15	指導実習模擬試験③	指導実習試験				

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー 学科  
AT・MT・PH コース

授業科目 (科目ID)	スノーボード・スキー宿泊実習Ⅲ 20t328	担当教員 (実務経験)	田口 清輝 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> トレーニング指導者		
対象年次・学期	3年・集中	必修・選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	実習	授業回数(1回180分)	15	時間数	60時間
授業目的	スキー・スノーボードにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。 スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。				
到達目標	冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料等配布する。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポート・提出物等の状況を総合的に評価する その他は受講姿勢等で評価する		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
	その他	80%			
履修上の 留意事項	宿泊研修という決まりの中で、自己管理、時間管理を徹底して行う事。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	事前説明会	目的、注意事項伝達		
	2	1日目午後レッスン開始	各班に分かれ道具の特性・理論等を学ぶ		
	3	1日目ミーティング	1日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	4	1日目ナイター練習	1日目に学んだことを復習する。		
	5	2日目午前レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ		
	6	2日目午後レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ		
	7	2日目ミーティング	2日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	8	2日目ナイター練習	2日目に学んだことを復習する。		
	9	3日目午前レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ		
	10	3日目午後レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ		
	11	3日目ミーティング	3日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	12	3日目ナイター練習	3日目に学んだことを復習する。		
	13	4日目午前レッスン開始	各班に分かれ、検定へ向けてレッスンをする		
	14	4日目検定	今まで学んだことを踏まえて検定に臨む		
15	4日目ミーティング	4日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する			

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー/スポーツ健康 学科  
AT・MT・PHⅢ/TR・IN・CO・SBⅡ コース

授業科目 (科目ID)	情報基礎 20t332/20s234		担当教員 (実務経験)	石井 克 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 新聞記者(フリーライター)	
対象年次・学期	3年/2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	ビジネスの場面に必要な、PC操作と情報の扱い方を学習する。				
到達目標	資料作成およびデータの整理と活用にあわせて、Word・Excelの基本操作方法を理解し、場面に応じて使用できる。				
テキスト・ 参考図書等	【テキスト】 実教出版企画開発部編(2016)『30時間でマスター Windows10対応 Word & Excel 2016』, 実教出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0%			
	小テスト	0%			
	提出物	30%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	学生の理解度に応じて、授業の進捗速度と度合いを変更する場合がある。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーションと導入	講義の進め方・試験方法・評価等の説明とガイダンス		
	2	Windows10の基礎	Windowsの基本操作		
	3	Wordの基本操作①	文字入力・印刷・保存		
	4	Wordの基本操作②	基本操作とタイピング練習①(400字)		
	5	Wordの基本操作③	基本操作とタイピング練習②(600字)		
	6	Wordの基本操作④	基本操作とタイピング練習③(800字)		
	7	Wordの活用①	表・グラフの作成		
	8	Wordの活用②	ビジネス文章の作成①(編集機能Ⅰ)		
	9	Wordの活用③	ビジネス文章の作成②(編集機能Ⅱ)		
	10	Wordの活用④	ビジネス文章の作成③(ビジュアル)		
	11	Excelの基本操作①	データ入力の基礎		
	12	Excelの基本操作②	ワークシート編集の基礎		
	13	Excelの基本操作③	ワークシートの書式設定		
	14	Excelの基本操作④	グラフ・表の作成		
15	前期のまとめ	Word・Excelの使用に関する前期のまとめ			

16	Excelの実践①	関数の適用①(オートSUMボタンの利用)
17	Excelの実践②	関数の適用②(順位付け、四捨五入、判定)
18	Excelの実践③	関数の適用③(条件による集計、表の検索)
19	Excelの実践④	データベース機能
20	Excelの実践⑤	データの集計
21	Excelの活用①	実習問題①
22	Excelの活用②	実習問題②
23	Excelの活用③	実習問題③
24	Word・Excelの応用①	PowerPointとの関連性
25	Word・Excelの応用②	インターネットの活用と情報倫理
26	Word・Excelの応用③	インターネットを利用した情報の活用
27	Word・Excelの応用④	スクリーンショット・PDFファイルの作成
28	Word・Excelの応用⑤	Word・Excelを使用したデータの整理と活用①
29	Word・Excelの応用⑥	Word・Excelを使用したデータの整理と活用②
30	後期のまとめ	Word・Excelに関する後期のまとめ

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナ/スポーツ健康 学科  
AT・MT・PHⅢ/TR・IN・CO・SBⅡ コース

授業科目 (科目ID)	就職実務  20t333/20s233	担当教員  (実務経験)	濱田 光  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	3年/2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	1. 就職決定に向け自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析を行う。 2. 就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。				
到達目標	社会人としての考え方や対応手法を学び、それらを説明・表現することができる。				
テキスト・ 参考図書等	就職サポートテキスト				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポートおよび提出課題、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	30%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	就職実務のテキスト及びプリント等を配布し授業を行う。、ここ数年の新卒就職戦線は売り手市場の傾向にありますが、その反面、雇用形態などの多様化も進み、仕事選びも難しくなっています。まずは自分自身を知り、社会傾向を知って悔いのない就職活動をする為に、客観的に自己評価を行うよう取り組んでください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	就活スケジュール・就活マナー・心構えなど、就活に向けた基本的な流れを学ぶ		
	2	就活対策(1)	エントリーシート(求職票)の書き方		
	3	就活対策(2)	履歴書の書き方①(練習用紙への記入)		
	4	就活対策(3)	履歴書の書き方②(本用紙への下書き)、線引き→下書き→チェック→本書き 完成品1枚回収		
	5	自己を知る	学生と社会人の違いを把握 自己分析・自己PRの作		
	6	就活対策(1)	求人票のチェック方法および志望動機の作成		
	7	就活対策(2)	PC室にてリクナビ、マイナビの説明、登録作業		
	8	就活対策(3)	企業へのアポイントの取り方、各提出書類の準備方法		
	9	選考試験対策(1)	選考試験の種類と対策		
	10	選考試験対策(2)	面接試験対策(基本動作・身だしなみ・事前準備)		
	11	選考試験対策(3)	面接試験対策(成功例と失敗例、質問内容)		
	12	選考試験対策(4)	面接試験対策(グループディスカッション、集団面接)		
	13	就職に向けて(1)	受験報告書の作成、提出		
	14	就職に向けて(2)	内定状の作成		
15	就職に向けて(3)	就職への心構え			

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー 学科  
AT・MT・PH コース

授業科目 (科目ID)	コミュニケーションⅢ 20t334		担当教員 (実務経験)	未定 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	社会人として「どうあるべきか？」を理解し、すぐ実践できることを目的とする。					
到達目標	2年次からの積み上げとして、社会人としての在り方を確認し実践できることを目標とする。					
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	レポート 20% 提出物 20% その他 60%(受講姿勢、受講態度等30%、担当所見30%)			
	レポート	20%				
	小テスト	%				
	提出物	20%				
	その他	60%				
履修上の 留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	就職活動に向けて①	履歴書の記入方法			
	2	就職活動に向けて②	自己分析 自分の強み、弱さ、今後どのように成長していくか、どのような職業人でありたいか			
	3	就職活動に向けて③	業界研究 進みたい分野における調査			
	4	就職活動に向けて④	就職情報サイトの利用方法			
	5	面接試験に向けて①	心構え、様々な面接試験について			
	6	面接試験に向けて②	入退室、面接試験体験①			
	7	面接試験に向けて③	入退室、面接試験体験②			
	8	一般常識①	漢字(読み・書き)			
	9	一般常識②	丁寧語、敬語			
	10	一般常識③	挨拶、接遇			
	11	一般常識④	マナー、一般常識(応用)			
	12	一般常識⑤	ペア対話、グループ対話			
	13	まとめ①	確認テスト(読み・書き・丁寧語・敬語)			
	14	まとめ②	確認テスト(挨拶・接遇)			
15	まとめ③	確認テスト(マナー・一般常識応用)				

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー 学科  
AT・MT・PH コース

授業科目 (科目ID)	カレッジイベントⅢ 20t335	担当教員 (実務経験)	未定 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	3年・集中	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	イベントを楽しく成功させる為の方法をディスカッションを通じ企画する事を目的とする。				
到達目標	誰もが楽しめるイベントを目指す。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料を配布。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポート 20% 提出物 20% その他 60%(受講姿勢、受講態度等30%、担当所見30%)		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	60%			
履修上の 留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	カレッジイベント内容①	イベントの内容説明		
	2	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	3	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	4	イベント実施	スポーツ大会		
	5	振り返り	レポート作成、提出		
	6	カレッジイベント内容②	イベントの内容説明		
	7	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	8	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	9	イベント実施	スポーツフェスティバル		
	10	振り返り	レポート作成、提出		
	11	カレッジイベント内容③	イベントの内容説明		
	12	役割分担	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者の決定		
	13	リハーサル	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者 当日準備		
	14	イベント実施	学園祭		
15	振り返り	レポート作成、提出			

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー／スポーツ健康 学科  
PHⅢ／ TRIⅡ・INⅡ・COⅡコース

授業科目 (科目ID)	インターンシップⅡ 20t338/20s239	担当教員 (実務経験)	田口 清輝 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> トレーニング指導者			
対象年次・学期	3/2年・集中	必修・選択区分	必修	単位数	2単位	
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間	
授業目的	フィットネス愛好者や子どもに対する運動指導を、実践から学ぶことを目的とする。					
到達目標	子ども～高齢者までの様々な年代に対して、運動の楽しさを伝えることが出来る。					
テキスト・参考図書等	なし					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験		%レポート内容、提出物および受講姿勢を総合的に評価する。			
	レポート	20%				
	小テスト					
	提出物	20%				
	その他	60%				
履修上の留意事項	特になし					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション(田口)	年間スケジュール、実習内容の説明			
	2	指導実習の事前学習(Jrスイミング)(古本)	Jrスイミングの指導方法、留意点、基礎知識を学ぶ。			
	3	指導実習の事前学習(Jr体育)(田口)	Jr体育指導方法、留意点、基礎知識を学ぶ。			
	4	実習(スイミング・体育)(古本、田口、高橋)	Jrスイミング指導。実際のスクールにサブコーチとして入水する。			
	5		Jrスイミング指導。実際のスクールにサブコーチとして入水する。			
	6		Jrスイミング指導。実際のスクールにサブコーチとして入水する。			
	7		Jrスイミング指導。実際のスクールにサブコーチとして入水する。			
	8		Jr体育スクール指導。実際のスクールに補助員として参加する。			
	9		Jr体育スクール指導。実際のスクールに補助員として参加する。			
	10		Jr体育スクール指導。実際のスクールに補助員として参加する。			
	11		Jr体育スクール指導。実際のスクールに補助員として参加する。			
	12		実習報告書の作成(スイミング・体育・イベント)(田口)	各スクールを振り返っての実施内容、反省、まとめを作成。		
	13		Bスタジオリュウスの受講(古本、田口)	45分間のスタジオリュウスに参加。		
	14			45分間のスタジオリュウスに参加。		
	15	45分間のスタジオリュウスに参加。				
	16	Bスタジオリュウスの受講(古本、田口)	45分間のスタジオリュウスに参加。			
	17	スタジオリュウスの計画①(田口、千保)	班編成を組み、プログラムの目的を決める。			
	18	スタジオリュウスの計画②(田口、千保)	プログラム内容の作成。			
	19	スタジオリュウスの計画③(田口、千保)	プログラム内容の作成。			
	20	スタジオリュウスの計画④(田口、千保)	プログラム内容、掲示ポスターの作成。			
	21	スタジオリュウスの計画⑤(田口、千保)	リハーサル実施。			
	22	スタジオリュウスの計画⑥(田口、千保)	リハーサル実施。			
	23	スタジオリュウスの実演(古本、田口、千保)	一般の方を対象に実施。			
	24		一般の方を対象に実施。			
	25		一般の方を対象に実施。			
	26	スタジオリュウス実習報告書作成(田口)	実施内容、反省、まとめを作成。			
	27	講義実習①(田口)	スポーツクラブ運営について。(顧客管理、			
	28	講義実習②(高橋)	水泳指導の実際について。(4泳法について、施設管理について)			
	29	講義実習③(土岐)	トレーニングについて。(BIG3、指導方法)			
30	まとめ(田口)	全行程を振り返り、反省、まとめを作成。				

2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー 学科  
AT・MT・PH コース

授業科目 (科目ID)	三年次研究課題 I 20t339		担当教員 (実務経験)	濱田 光 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	4単位
授業形態	講義		授業回数(1回180分)	15	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。					
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。					
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料等配布する					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。			
	レポート	60%				
	小テスト	%				
	提出物	20%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項						
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	下肢のスポーツ外傷・障害 1	ACL損傷			
	2	下肢のスポーツ外傷・障害 2	PCL損傷			
	3	下肢のスポーツ外傷・障害 3	MCL損傷、LCL損傷			
	4	下肢のスポーツ外傷・障害 4	大腿部打撲、膝蓋靭帯炎			
	5	下肢のスポーツ外傷・障害 5	アキレス腱断裂			
	6	下肢のスポーツ外傷・障害 6	足関節内反捻挫、扁平足障害			
	7	上肢のスポーツ外傷・障害 1	肩関節脱臼(コンタクト)			
	8	上肢のスポーツ外傷・障害 2	肩鎖関節脱臼			
	9	上肢のスポーツ外傷・障害 3	肩インピンジメント症候群			
	10	上肢のスポーツ外傷・障害 4	肘MCL損傷			
	11	上肢のスポーツ外傷・障害 5	突き指、TFCC損傷			
	12	体幹のスポーツ外傷・障害 1	腰椎椎間板ヘルニア			
	13	体幹のスポーツ外傷・障害 2	腰椎分離症			
	14	体幹のスポーツ外傷・障害 3	筋膜炎腰痛			
15	体幹のスポーツ外傷・障害 4	頸椎捻挫、頸椎椎間板ヘルニア				



2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー 学科  
AT・MT・PH コース

授業科目 (科目ID)	三次研究課題Ⅱ 20t340		担当教員 (実務経験)	濱田 光 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	4単位
授業形態	講義		授業回数(1回180分)	15	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。					
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。					
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料等配布する					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。			
	レポート	60%				
	小テスト	%				
	提出物	20%				
	その他	20%				
履修上の 留意事項						
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	解剖学的用語の確認	体表の区分・運動の表し方			
	2	骨・関節の構造と機能	骨の構造・関節の構造・靭帯の構造			
	3	筋・腱の構造と機能	筋に関する生理学			
	4	骨格筋の神経支配と反射	筋に関する生理学			
	5	脳(運動発現プログラム)①	運動プログラム①			
	6	脳(運動発現プログラム)②	運動プログラム②			
	7	消化器と栄養吸収	咀嚼・胃・小腸・肝臓			
	8	消化器と栄養吸収	咀嚼・胃・小腸・肝臓			
	9	呼吸器と呼吸運動	鼻腔～肺の構造と働き			
	10	循環器系と血液	心臓の構造と働き、血液			
	11	上肢帯の運動:肩・肘・手	肩関節に関する運動、肘関節に関する運動、手関節に関する運動			
	12	下肢帯の運動:足・膝	足関節の運動、膝関節の運動			
	13	体幹+下肢帯の運動:股関節	腰椎と股関節の運動			
	14	体幹の基礎解剖と運動:頰椎	体幹の基礎解剖と運動、頰椎の運動			
15	体幹の基礎解剖と運動:胸椎	胸椎と胸郭の運動				



2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー 学科  
AT・MT・PH コース

授業科目 (科目ID)	三年度研究課題Ⅲ 20t341	担当教員 (実務経験)	濱田 光 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	3年・集中	必修・選択区分	選択	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回180分)	15	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。				
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料等配布する				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。		
	レポート	60%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	チームワーク①集団とチーム	チームワークと集団の違い、チーム形成のプロセス		
	2	チームワーク②チームミーティング	チームミーティング 役割を分担の理解と相互依存関係について		
	3	チームワーク③チームビルディング	チームビルディングの概要と効果的なアプローチ		
	4	心理的サポートの必要性	心理サポートを求める選手の特徴と傾向		
	5	指導者による心理的サポート①非言語表現	非言語的・準言語コミュニケーションの理解と実際		
	6	指導者による心理的サポート②言語表現	言語的コミュニケーションの理解と実際		
	7	指導者による心理的サポート③演習	コミュニケーションを用いた演習・傾聴スキルとは		
	8	スポーツカウンセリング①基本姿勢	カウンセリングの基本姿勢、アセスメント・ラポールについて		
	9	スポーツカウンセリング②質問他	質問のねらいと種類、感情の転移・逆転移の理解		
	10	心のコンディショニング①覚醒水準の違い	最適な覚醒水準の違い・ピークパフォーマンスについて		
	11	心のコンディショニング②セルフモニタリング	セルフモニタリングの種類・最適な自分の情動状態を知る		
	12	発育発達の心理①	ジュニア期特徴と対応、学習理論について		
	13	発育発達の心理②	思春期の対応と青年期以降の対応		
	14	メンタルマネジメント、ストレスと認知変容	ストレスの概要、ABC理論について		
15	メンタルトレーニングの活用と実際	メンタルトレーニング活用方法とサポートの実際			



2020年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツトレーナー/スポーツ健康 学科  
AT・MT・PHⅢ/TR・IN・CO・SBⅡ コース

授業科目 (科目ID)	ボランティア活動  20t342/20s243		担当教員  (実務経験)	ボランティア先の担当者およびクラス担任  有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	各学科就職学年(4年、3年、2年)・集中		必修・選択区分	選択	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)		15	時間数	30時間
授業目的	ボランティア活動を通じて、直接的に実践力を身につける。					
到達目標	ボランティア活動先における実務遂行を通じてボランティア精神や各種能力・技術力の向上を図る。					
テキスト・ 参考図書等						
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	ボランティア活動先の担当者に、実務遂行状況について、相対的な判断にて評価してもらう。(ボランティア活動先の担当者と当該クラス担任間において情報交換し評価する場合もある。) 「ボランティア活動報告書」の提出をもって、活動状況を把握する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	100%				
履修上の 留意事項	学外での活動であり、ボランティア活動先において学習するため、各自の目標設定やスケジュール管理が大変重要となります。活動期間が有意義なものとなるように、コミュニケーションをしっかりと取りながら、目標達成を目指してください。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	2	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	3	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	4	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	5	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	6	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	7	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	8	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	9	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	10	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	11	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	12	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	13	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	14	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			
	15	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			